

また、ごく最近の意識動向の特徴としては、社会的不公平感の増大、金銭万能思考の蔓延、脱社会的・自己中心的態度の増加、女性の地位の上昇、などが挙げられるが、全体としては清新さに乏しい“爛熟期の意識”とでも評すべき状況である。

いずれにしても、戦後昭和期の分析から得られた最大の成果は、身近な人間関係観こそが意識の基底をなす、日本人理解の鍵であろうとの確証を得たことであり、この意味で、人間関係観の精細な解明を抜きにしては日本人理解の進展はありえないのではないかと考えられる。

3-共研-79 縄文貝塚のデータベース構築とその統計分析

共立女子短期大学 植木 武

千葉県にある貝塚のデータベース作成を完了し、集計を始めた。計403例(項目により総数551例)の貝塚をもとに、それらの所在地、使用状況、形態、保存状況、貝層の性格、出土貝までの集計を終えたところである。貝塚の所在地としては、千葉市、市川市、松戸市が他市に比べて抜きんでて多いこと、使用現状としては、畑が特に多く、次に宅地、山林、荒地、寺社と続くことが判明した。貝塚の形態を分類してみると、地点が48%、点列が32%、馬蹄形(環状)が19%、弧状が1%である。保存状況は、良好なものが18%で、一部破壊、半壊、ほとんど消滅が計65%、消滅と確認できないが計17%となった。海産か川・湖産かという貝層の性格は、ハマグリ、アサリ、アカニシ、サルボウ、シオフキ、オキシジミ、ツメタガイ、ハイガイ、マガキ、ウミナと続く。

以上の単純集計の結果は、専門家にとってだいたい予測されたもので驚くものではないが、数値として提出されたものは初めてのことで、それなりに評価されるものと思う。特に、馬蹄形貝塚が約20%あることが判明したことや、保存状況で良好なものは18%しかないということが数値で現れたことは、専門家にとっても貴重なデータとなるものであろう。

今後の研究の予定は、この単純集計を最後まで行い、その後、千葉県の縄文貝塚のモデルを、時代別と立地別に分けて作成することである。モデル作成は初めてのことで、この東京湾東岸のモデルが出来上がれば、他の地方でのモデルも作成できるであろうし、また、外国のモデル作成にも刺激を与えるかも知れない。

3-共研-81 梵文法華経の数理文献学的解析

統計数理研究所 村上 征勝

3年計画の最終年に当たる今年度は

1. 前年度までに終了した梵文法華経のデータのチェック、修正
2. 単語索引の作成及び出版
3. 作成したデータベースを用いた計量分析

などに関連する作業を行った。

1に就ては、前年度までに完了した、梵文法華経本文を単語に分割したデータベースのチェックを行い、部分的に誤りを修正するなどの作業を行った上、データベースを完成させた。

2に就てはそのデータベースを基礎に、単語索引としての形態を整え、出版原稿の完成を見る

に至った。法華経は西域、中国、朝鮮、日本などの各地の文化に大きな影響を及ぼした。同経をめぐり現在に至るまで様々な研究が試みられてきたが、整備されたインデックスはまだ存在していない。このため本研究に於てはいわば副産物としてではあるが、索引の刊行を企図した。現在のところ作業は概ね完了し、原稿の形になっている。

3に就ては作成したデータベースを基に文献情報に関する簡単な計量分析を行った。その結果、文長、語長、文の数などの文に関する情報に基づき、いくつかの貴重な情報が得られた。しかし、今回作成したデータベースでは文法情報が動詞の判別等、未だ低い段階にとどまったため、文法情報に基づく分析に着手するに至らなかったことが残念である。今後の課題として、可能であれば試みなければならない問題である。

本研究はおそらく世界初の梵文文献を対象とする研究である。そのため、まだまだ議論されねばならない課題は多いが、所期の研究目的は達成されたと言える。

3-共研-83

源氏物語の計量国語学的分析

統計数理研究所 村上 征勝

源氏物語は平安中期に紫式部の手によって成立したとされる。しかしその作者をめぐっては多くの疑義があり、本研究は3年の計画でこの疑義に関するアプローチを試み、また平安期の日本語の計量的な特色を把握すべく研究を開始した。

さて、3年計画の初年度にあたる本年は、主に

- 1) 底本の選定、参考図書の整備
- 2) 原文の入力
- 3) 入力した部分の校正
- 4) 分ち書き

などの作業を行った。

1)については資料の作成と共に、将来解析を行うにあたり適切なデータが得られるか否かなどの観点から批判を行った。

2), 3)については富士電機 XP-50S を用い、原文を読み込み、更に人力による校正を行い、データを整備した。

4)については原則として手作業で行わざるを得ないと考えていたが、部分的にはあるが、分ち書きの自動処理プログラムが実用に堪えるレベルに至ったので、これを使用することにより大幅なスピードアップが可能となり、当初の予想以上に進歩した。

以上の作業と並行して、文法情報の作成、処理プログラムの作成が開始された。本研究では日蓮遺文の計量的研究に於て培われたノウハウを基に、文法情報を作成した。

3-共会-1

粒子発生過程の統計現象

信州大学 教養部 美谷島 実

標記研究会を10月28, 29日、文部省統計数理研究所で開催した。当研究会の当初の目的は“高エネルギー素粒子、原子核反応における高多重度現象の統計を如何に取扱うかを議論するこ